

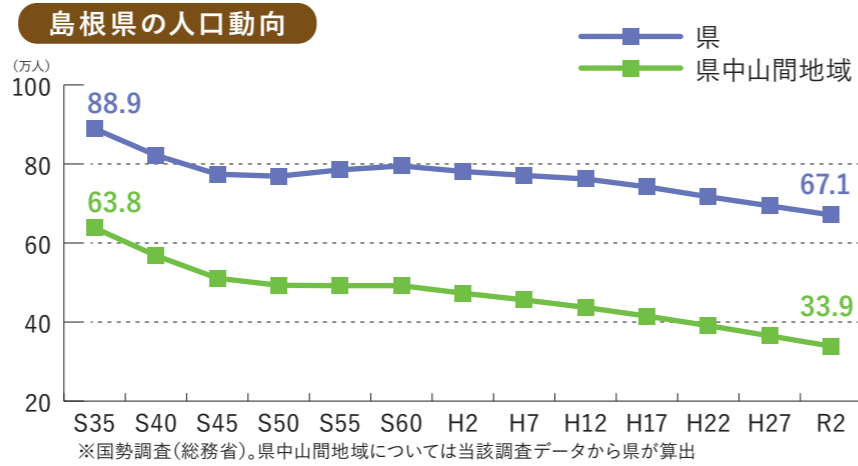
進んでいます



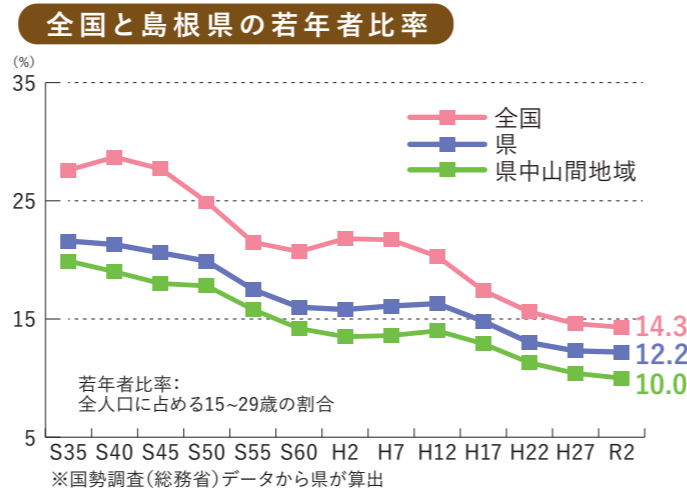
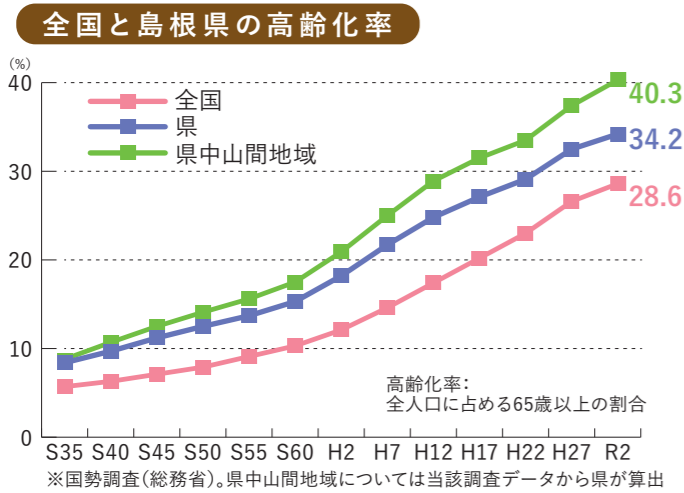
小さな拠点づくりとは？

中山間地域において、公民館エリア(旧小学校区)を基本に、住民同士が議論をして知恵を出し合い、地域の課題解決に取り組んで、安心して暮らすことのできる環境をつくることを言います。

島根県の人口は、一時的に増加する時期はあったものの長らく減少傾向が続いており、現在は70万人を下回って減少し続けています。特に中山間地域で減少幅が大きく、昭和35年から令和2年までの60年間で約30万人減少し、県全体の人口減少につながっています。



また、県の高齢化率は全国で4番目に高い34.2%、中山間地域ではさらに高く40.3%となっており、全国平均に比べて速いスピードで高齢化が進んでいます。一方で、若年者比率は全国平均よりも低く、減少傾向が続いています。



中山間地域では、上記のとおり少子化や高齢化が進んだり、若年層を中心とした人口の流出が進んだりしたことで、担い手不足が深刻化し、買い物や通院への移動など日常生活に影響が出ている公民館エリアが増えてきている状況にあります。また、中山間地域ではなくても、同様に日常生活への影響が出始めていたり、これから影響が出てくる可能性もあります。

そのため、県では、安心して暮らすことのできる環境づくりを進めようと、市町村と連携して、住民同士が話し合って地域の課題解決に取り組む「小さな拠点づくり」を支援しています。令和4年1月現在、県内で243エリアある中山間地域のうち137エリアでこの取組が進んでいます。

中山間地域とは

- 県中山間地域活性化基本条例の要件に当てはまる地域で、松江市、出雲市、安来市の一部を除く地域が該当します。
- 豊かな自然、歴史、伝統文化や芸能などが連綿と受け継がれています。

県の面積の約90%を占め、人口の約50%が中山間地域で暮らしています。

小さな拠点づくり 取組例



県が行った調査によると、2,000人程度の人口規模がある公民館エリアでは、商店や診療所等の生活に必要な施設等は概ね維持されています。一方で、公民館エリアの人口規模が小さくなるにつれて、その確保は難しい傾向が強くなります。

公民館エリアにおける買い物施設等の現存状況

※H30地域実態調査(島根県)
※上段:地区数、下段:全体に占める割合(%)

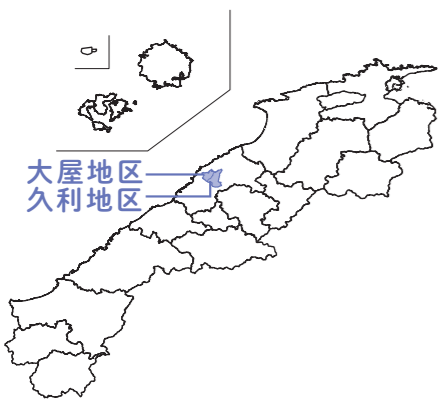
人口規模別	地区数	食料品等の買い物施設					医療・福祉施設		
		大型店舗	スーパー等	コンビニ	個人商店	ガソリンスタンド	病院	診療所	介護施設
全地区	236	23 (9.7%)	44 (18.6%)	50 (21.2%)	197 (83.5%)	112 (47.5%)	19 (8.1%)	131 (55.5%)	148 (62.7%)
~499人	65	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	41 (63.1%)	10 (15.4%)	0 (0.0%)	19 (29.2%)	20 (30.8%)
500人~	73	2 (2.7%)	7 (9.6%)	6 (8.2%)	64 (87.7%)	34 (46.6%)	1 (1.4%)	40 (54.8%)	38 (52.1%)
1,000人~	34	4 (11.8%)	5 (14.7%)	7 (20.6%)	31 (91.2%)	16 (47.1%)	1 (2.9%)	20 (58.8%)	28 (82.4%)
1,500人~	30	2 (6.7%)	9 (30.0%)	6 (20.0%)	27 (90.0%)	19 (63.3%)	5 (16.7%)	19 (63.3%)	28 (93.3%)
2,000人~	34	15 (44.1%)	23 (67.6%)	30 (88.2%)	34 (100.0%)	33 (97.1%)	12 (35.3%)	33 (97.1%)	34 (100.0%)

地区の人口規模が大きくなるにつれて生活に必要な施設がそろっている傾向にあります

70%以上の公民館エリアで存在

今後も人口減少は避けられず、担い手不足などにより、1つの公民館エリアでは地域の課題解決が難しい状況に直面することが予想されます。そのため、県では令和2年度から、人口の少ない複数の公民館エリアが連携して「小さな拠点づくり」に取り組む「複数連携モデル地区」を選定し、他地域のモデルケースにもなるよう重点的に支援しています。

このリーフレットでは、県が「複数連携モデル地区」として選定した4地区の取組をご紹介します。



く り おお や 大田市久利・大屋地区

人口も面積も異なる二つの地区が
お互いに補い合って生まれる新しい取組

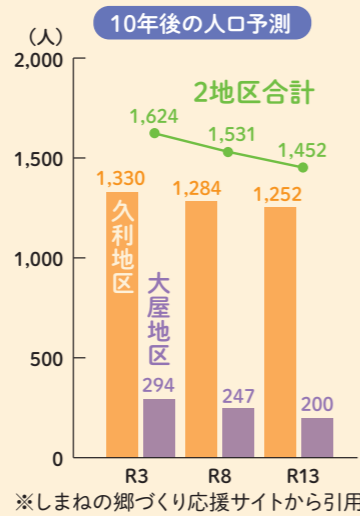
大田市街と石見銀山との間に位置する両地区。連携のきっかけとなったのは、大屋地区内のバス路線廃止でした。自治会輸送の共同運行を皮切りに、両地区が抱えている共通の課題をより効率的、効果的な手法で解決しようと、様々な活動が始まっています。今後も両地区が連携することで、担い手の確保につなげ、「久利・大屋地区の住民が、住み慣れた地域で安心して住み続けることができるまち」を目指した取組が進められます。

地区紹介

久利地区 人口 1,330人
高齢化率 38.7%

大屋地区 人口 294人
高齢化率 60.5%

※令和3年4月末時点



○ 地域の特徴

- ・大田市のほぼ中央部に位置し、市街地までは車で約10～15分
- ・久利地区には、市道久利まちなみ線沿いに診療所、学校などの施設が集まっている
- ・大屋地区には、主要施設が乏しく、公共交通機関もない



くりの里産直市場

久利地区内を通る県道46号線沿いにある住民手作りの産直市。毎週水曜日と土曜日の午前中に開催されており、出荷した野菜を陳列する地域住民と、新鮮な野菜を求める人で賑わいます。生産者のやりがいや生きがいも生まれ、地域住民の交流も活発になりました。



おにむら おにいわ 鬼村の鬼岩

大屋地区鬼村にある鬼が運んできたという伝説が残る奇岩。島根県天然記念物。えぐられたような側面に並ぶ5つの穴は鬼がつかんだ指の跡だと伝わっています。令和2年6月に日本遺産『石見の火山が伝える悠久の歴史』の構成文化財として認定されました。



現在の取組

住民の移動手段の確保 両地区共同で取り組む「デマンド型自治会輸送」

大屋地区内の路線バスの廃止をきっかけに、久利地区で既に実施していた自治会輸送を、令和3年4月から大屋地区にも拡大し、両地区共同での自治会輸送が始まりました。運転手は両地区から募った住民ボランティアが担い、事前予約制により週4日、自宅から目的地までの送迎を行っています。現在、移動手段を持たない地域の高齢者等約50名の利用者登録があり、主に医療機関への通院などでの利用が広がっています。



まちなみの声
通院の時などに利用しています。家の前で送迎してもらえるのでありがたいです。

高齢者等の生活支援 草刈り・除雪等ボランティア「手ごし隊」

高齢者等の日常生活の困りごとをお手伝いするため、ボランティア組織「手ごし隊」を結成。住民の依頼に応じて、住宅周辺や耕作放棄地の草刈り、進入路の除雪などの支援が行われています。現在は約7名のボランティアで草刈りが中心の活動ですが、今後は地区内をはじめ地区出身者、地域づくりに興味のある方に声をかけ、取組を広げていくこととしています。



今後の計画

1. 生活交通の確保
 - 自治会輸送を有償運送へ移行
 - 推進組織の法人化(稼働仕組みとリンクした持続可能な組織づくり)
2. 生活支援の環境整備
 - 地域住民との交流による子どもの居場所づくりと見守り
 - 高齢者等への買い物支援
 - 多世代交流・多機能拠点施設の整備
3. 助け合いネットワークの構築
 - 防災意識の向上、災害時等の避難・見守り体制の整備
 - 高齢者等の生活支援ボランティア「手ごし隊」の取組拡大
 - 鳥獣害対策として、猟師の担い手の育成・組織化

地区のこれからと想い

「特産品の販売など、地域で稼ぐ仕組みも取り入れながら、組織やこの地域を持続させていくための方策を考えていかないといけない。地域の資源をどう活かし、地域にどう還元していくか。そのためにはお互いに地域のいいエネルギーを引き出すことが必要」と事業の進捗とこれからの地域のために、一歩先を見据えている。

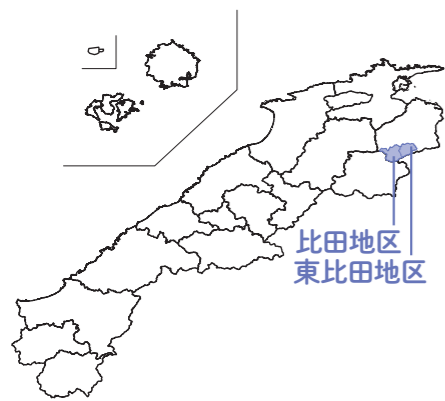


久利まちづくり推進協議会 会長
久利・大屋地区小さな拠点推進協議会 会長
もり やま 森山 護さん

「久利地区と共同運行する自治会輸送は、一年目とはいえ20人以上の利用登録につながった」と、手ごたえも実感している。「あるものは久利で、あるものは大屋でと、両地区の良いところを活かしながら、地域が自立して残っていけるような取組につなげていければ」と、協働への期待を寄せる。



大屋まちづくり推進委員会 会長
久利・大屋地区小さな拠点推進協議会 副会長
あん どう 安藤 彰浩さん



安来市比田・東比田地区

比田を愛し行動し誇りに思える地域に
今日も明日もずっとえーひだ

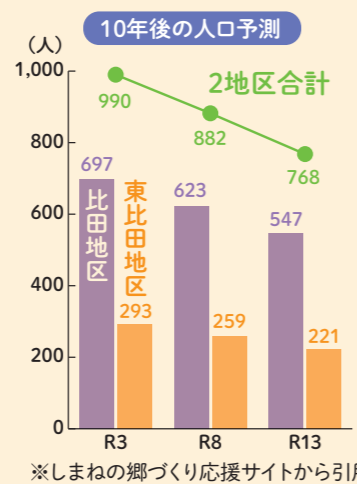
人口減少や商店の閉店、小中学校の統廃合などで生まれた「このままでは比田がなくなる」という危機感をきっかけに、比田地区と東比田地区で連携した取組が始まっています。様々な世代の思いを詰め込んだ比田地域ビジョンの実現に向けて、住民が主体となり、今日も、明日も、10年後も「えーひだ」（良い比田、良い日だ）と実感できる地域を目指し、活動が進められています。

地区紹介

比田地区 人口 697人
（西比田・梶福留） 高齢化率 50.2%

東比田地区 人口 293人
 高齢化率 60.4%

※令和3年4月末時点



○ 地域の特徴

- ・安来市の最南部に位置し、市中心部から車で約40分。鳥取県日南町と隣接している
- ・比田地区を縦断する国道432号の周辺に学校や買い物施設、ガソリンスタンドなどの施設が集まり、東比田地区には比田温泉がある



地域ブランド米「比田米」

澄んだ空気や清らかな水、昼夜の寒暖差など、美味しいお米が育つ恵まれた環境で作られた「比田米」は地域が誇る特産品です。安来市のふるさと納税の返礼品にも選ばれています。



春の訪れを伝えるシバザクラ

平成26年から棚田の畦を彩るシバザクラの植栽活動が行われています。4月下旬から5月初旬にかけて約5万本が見頃を迎え、毎年、地元はもちろん、県内外から多くの方が訪れています。



えーひだカンパニー株式会社

比田地域ビジョンの実現に向けて、地域住民が「えーひだカンパニー」を設立。生活環境の整備、産業の振興、地域の魅力向上、定住の推進の4つの事業を進める中心的な役割を担っています。

現在の取組



バス停や商店などへの移動をサポート 有償運送による移動支援

車の運転が難しい高齢者等の自宅からバス停までの移動手段を確保するため、東比田地区を中心に実施していた有償運送が令和3年4月から比田全域にも拡大して運行されています。あわせて、地域内の商店や金融機関等への送迎サービスも始まり、地域住民の移動を支えています。

まちのひとの声 JAや郵便局に行く時に利用しています。自宅から目的地まで直接送ってもらえるので助かっています。



子どもから大人まで住民全員で取り組む 自主防災対策の強化

防災研修会の開催や比田版ハザードマップづくりなど自主防災対策の強化に取り組まれています。防災士の養成や小学生への防災教育の実施などで人材を育成・確保。2地区で人材を共有しながら、今後も安心して住み続けられるように助け合いの仕組みづくりが進められる予定です。

まちのひとの声 子どもから大人まで幅広い世代で防災の知識を学ぶことは、いざという時の備えになり、大切なことだと思います。

1. 高齢者支援

- 冬期の一時居住施設の整備 ● 移動販売の実施

2. 自主防災対策の強化

- 防災士の養成 ● 比田版ハザードマップづくり
- 防災研修会や防災教育の実施

3. 多機能拠点施設の整備

- デマンド交通や移動販売の拠点、路線バスへの乗継場所、直売所等となる多機能拠点施設を整備

今後の計画



地区のこれからと想い

「店や学校がなくなり、人口も減る。でもここで暮らしていくためにはどうすればいいのか。」地区のみんなでも考え、ビジョンをつくり、実現のためにカンパニーや協議会などを立ち上げた。「人口が減っても持続できる循環型社会（ヒト・モノ・自然・カネ）、お互いを支え合う地域を目指したい」と意気込みを語る。



比田地区小さな拠点づくり推進協議会 会長
えーひだカンパニー株式会社 代表取締役社長
かわかみ よしの
川上 義則さん

地域おこし協力隊として1ターンし、比田地域ビジョンの作成に関わった後、えーひだカンパニーに入社。「私がカンパニーにいる意味は、外部の目でやり方を考えることで、主役はやはり比田の人。この小さな拠点づくりがここで暮らす人々の暮らしを支え合い、比田で生きる幸せにつながれば」と夢を語る。



えーひだカンパニー株式会社 取締役
のじ
野尻 ちさとさん



江津市桜江地区

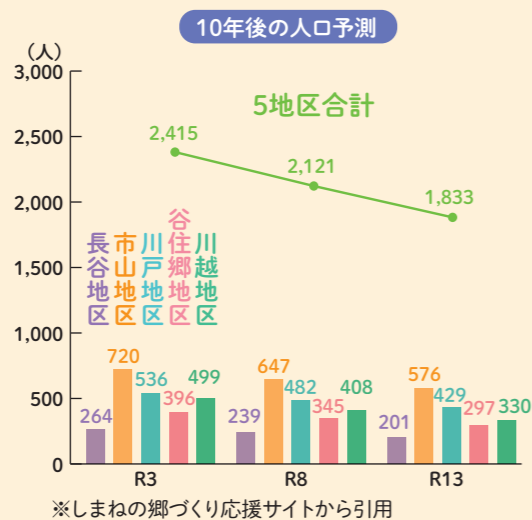
旧町エリアの連携した取組で いつまでも安心して住み続けられる地域を目指す

平成の合併前は1つの町であった桜江地区。5地区で構成されるこの地区は、江の川が流れ、何度となく水害と闘ってきました。平成30年7月豪雨では、多数の家屋浸水や道路の冠水が発生。川越地区の防災拠点施設も被災したことで、各地区で連携した防災体制の構築が急務となりました。担い手不足が進み、地域活動の継続が困難になりつつある中、安心して住み続けられる地域を目指した取組が始まっています。

地区紹介

長谷地区	人口 264人	高齢化率 51.5%
市山地区	人口 720人	高齢化率 40.4%
川戸地区	人口 536人	高齢化率 44.2%
谷住郷地区	人口 396人	高齢化率 48.5%
川越地区	人口 499人	高齢化率 55.1%

※令和3年4月末時点



○ 地域の特徴

- ・桜江地区の東西を江の川が流れている
- ・江津市桜江支所の周辺に買い物施設などが集まっている



江の川の鯉のぼり

こどもの日が近づくと、谷住郷地区の江の川上空を色とりどりの鯉のぼり約150匹が泳ぎ出します。この取組は地元の若手グループが中心となり、約40年前に始まったもの。こどもの日にはこの付近で、水難防止を祈願する川舟神事も行われています。



大元神楽

桜江地区には石見神楽の原型とされる大元神楽が受け継がれています。国の重要無形民俗文化財に指定されているこの神楽は、六調子でゆったりと舞われます。市山地区にある大元神楽伝承館には江戸末期に制作されたという神楽面が所蔵されています。



現在の取組

5地区の自主防災組織が連携した 防災力の強化

毎年のように起きる災害に備えようと、長谷・市山・川戸・谷住郷・川越の5地区がお互いに連携、支援する体制を構築し、防災力を高める取組が進められています。まずは各地区で取組を進めようと、研修会やワークショップを開催して課題を把握。アドバイザーの助言を受けながら、地域が一体となって防災対策の強化を図る計画です。また、活動の中心となる人材を確保するため、防災士などの防災リーダーの育成にも取り組んでいます。



高山さん(R2年に防災士の資格を取得)
被災時の経験や資格取得の際に学んだ知識をいかして防災活動に関わっています。

地域の活動を広げる交流拠点施設 「3Colors」

長らく空き家となっていた本屋を改修して、地域の交流拠点「3Colors」がオープンしました。バス停のある旧川戸駅近くのこの拠点は、バスの待合所、子どもたちの自主学習の場として地域住民に利用されています。現在、多世代交流やコミュニティ学習塾、高齢者サロンなど新たな活動の場としての活用が検討されています。



今後の計画

1. 地区防災体制の構築
 - 地区防災計画の策定
 - 自主防災組織の連携体制の構築
 - 防災士等の養成
 - 川越地区防災拠点・避難拠点センターの整備
2. 若年世代の定住促進
 - 多世代居住の推進
 - 交流拠点施設「3Colors」の活用推進
3. 高齢者の生活利便性の向上
 - 移動販売の実施

地区のこれからと想い

「頻発する災害が人口減少の一因にもなっている。どの地区もマンパワーが不足しているという状況は一緒。だからこそ5地区が相互に助け合える仕組みをつくりたい」と今田さん。地区全体の防災力の強化は、まったなしの課題。安心して住み続けられる地区を次の世代にバトンタッチしたい、と取組を進めている。

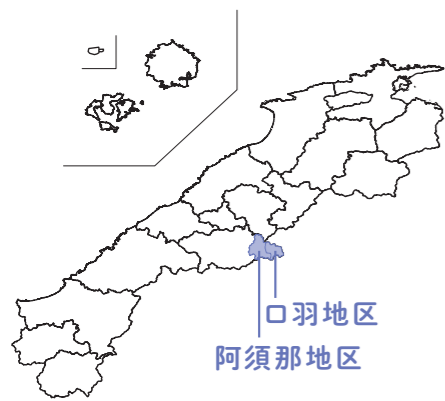


さくらえ地区
小さな拠点推進協議会
会長
いまだ みつあき
今田 三之さん

「漠然と人が触れあえるコミュニケーションの場が作れないかと考えていたところ、小さな拠点づくりの話聞き、自分の思いと接点があると感じて協働することにしました」と山本さんは話す。「新しいことを創り出す仲間が増えれば、もっと桜江は面白くなる」と3Colorsを拠点にした取組のさらなる発展を期待する。



3Colors代表
やまもと たつひこ
山本 達彦さん



あすな くちば 邑南町阿須那・口羽地区

阿須那と口羽が手を取り合ってつくる 「はすみの村づくり」

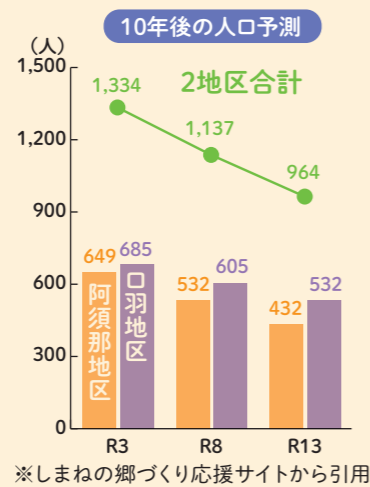
人口減少や高齢化の進展、若者の地区外流出などにより地域活動の担い手の確保が課題となる中、重要な交通機関であったJR三江線が廃止になりました。地域の衰退がさらに進むことを危惧した両地区は、住民組織によるデマンド交通の運行を開始。これをきっかけに、かつて「羽須美」という一つの村だった両地区が再び一体となって、買い物対策をはじめとした生活を支える活動が始まっています。

地区紹介

阿須那地区 人口 649人
高齢化率 58.4%

口羽地区 人口 685人
高齢化率 56.4%

※令和3年4月末時点



○ 地域の特徴

- ・集落がまばらに点在し、商店などの主要施設はそれぞれの地区の中心部に固まっている
- ・口羽地区には邑南町羽須美支所が、阿須那地区には羽須美中学校がある
- ・阿須那地区には住民組織がJAから委託を受けたガソリンスタンドがある



いなか
INAKAイルミ

「天空の駅」と呼ばれる旧JR三江線宇都井駅の駅舎とその周辺の田園を幻想的にライトアップするイルミネーションイベント。阿須那地区宇都井集落の住民の方々が有志で実行委員会を立ち上げ、地域内外の方が企画の段階から参加する「応援団」の協力も得て開催されています。



天国へ一番近い里 花桃まつり

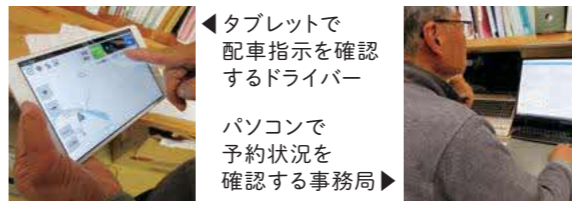
口羽地区にある川角集落は、お年寄りが多く、標高も高いことから、住民みずから「天国へ一番近い里」と呼び、人が来てくれるような美しい風景にしようと休耕地に花桃を植え始め、いまでは2000本以上の木が植えられています。毎年4月になると集落全体に色鮮やかな花々が咲き誇り、まさに桃源郷といえる風景が広がります。

現在の取組



地域をつなぐ有料デマンド型送迎サービス 「はすみデマンド」

利用者の自宅から阿須那・口羽地区内の目的地まで送迎する「はすみデマンド」。住民が立ち上げた「NPOはすみ振興会」が運行しています。ドライバーは各自治会から出し合い、国土交通省の運転者認定講習を受け、登録した自家用車が使われています。8割以上の方が通院のために利用しており、住民にとって欠かせない交通手段となっています。



◀タブレットで配車指示を確認するドライバー

パソコンで予約状況を確認する事務局▶

まちのひとの声 病院や買い物に行くための移動手段に困っていましたが、「はすみデマンド」のおかげで外に出やすくなり、本当に助かっています。

今後の計画

- いつまでも安心して暮らし続けられる環境づくり
 - ターミナルの整備
 - 交通システムの開発
- 誰もが楽しく暮らせる「集いの場」づくり
 - サロンの充実
 - 困りごと解決の体制づくり
- 出身者としてしっかりつながってUターン・Iターンを増やす仕組みづくり
 - 関係人口のリスト化
 - 住まい、仕事、遊びの環境づくり
 - 「はすみ新聞」の発行やSNSの活用
- 若い世代も楽しく暮らし地域活動へも参加しやすい環境・雰囲気づくり
 - 子どもを地域みんなで育てる仕組みづくり
- 美しい里山景観や農地を守り活用する仕組みづくり
 - 有効な鳥獣害対策の研究
 - 里山体験プログラムの開発
- 集落や自治会を超えて助け合う体制づくり
 - 地域団体や自治会の役員など人口に見合わない数の「役」を見直し

地区のこれからと想い

「一生ここで暮らしていきたいが、どうしたらいいのか」という思いから、昨年度「あすな地区応援隊」を設立。「組織として自立し、助けを必要とするみなさんを支えていかねばならない。口羽地区から学び、連携していきたい」と今後の意気込みを語る。



あすな地区応援隊
会長
たかもと しょうへい
瀧本 昭平さん

10年前に「口羽をてごおる会」を設立。困りごとの解消や楽しみの提供など、高齢者の暮らしに寄り添う「てごお」を行っている。「阿須那地区の力がなくて小さな拠点づくりはできない。共に知恵と人を出し合って、生活環境を守っていく仕組みをつくりたい」と協働に期待を寄せる。



口羽をてごおる会 事務局長
NPOはすみ振興会 副理事長
おだ ひろゆき
小田 博之さん

しまねの郷づくり応援サイト

県内全域298の公民館エリアの人口推計や30年後の人口シミュレーションなどの情報を掲載しています。地域の話し合いのきっかけにぜひご活用ください。

本リーフレットでご紹介した4地区の取組の詳細も、このサイトからご覧いただけます。

<https://satodukuri.pref.shimane.lg.jp/>

しまねの郷づくり応援サイト



小さな郷づくり相談窓口

ご相談は下記の島根県の担当課にお問い合わせください。

お住まいの市町村ごとの相談窓口

松江市・出雲市・安来市・雲南市・奥出雲町・飯南町

中山間地域・離島振興課 東部地域支援スタッフ TEL 0854-42-9510

大田市・川本町・美郷町・邑南町

西部県民センター 石東地域振興課 TEL 0854-84-9580

浜田市・江津市

西部県民センター 石央地域振興課 TEL 0855-29-5502

益田市・津和野町・吉賀町

西部県民センター 石西地域振興課 TEL 0856-31-9750

海士町・西ノ島町・知夫村・隠岐の島町

隠岐支庁県民局 地域振興課 TEL 08512-2-9613



令和4年3月発行

島根県地域振興部中山間地域・離島振興課
松江市殿町1番地 TEL 0852-22-5065

※本リーフレットの内容は、別途注釈があるものを除き、令和3年10月時点の内容で作成しています。